この秋こそ奉公の機會[[1]](#footnote-1)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　常務理事　香山光郎

　今や大東亞戰爭始まつて旣に數ケ月、暴戾米英撃滅の聖業は、着々進みつゝあるがこの時、我等半島民衆は大君の爲め、御國の爲め大いに御奉公致さねばならぬと思ひます。日韓併合以後、世間一部の人には常に當局に向ひ「くれない」とて不滿を持つて來つたのであります。だがこ[の]觀念は西洋式國家觀念にして[、]即税金を幾何納めたからそれだけ國家より何かを受けねばならぬと云ふのが、西洋式國家觀念であるが、我が日本の國家觀念はそれとは反對に喜んで進んで凡てを御國へ捧げようとするものであります。即ち、何等望む處なく只喜んで捧げるのが、日本の國家精神であります。

　私如き者もこの日本の國家觀念を把握するようになつたことをうれしく思ふが[、]我等は今迄に御國捧げたものが餘りに少かつたことを恥かしく思ます。

　今度の支那事變に戰地に於て散華した戰没將兵、十萬六千に至ると軍から發表があつたが、内鮮人の比例から見れば内地人が十萬六千名戰没するとき、その中に朝鮮人が三萬名は含まれて居るのが本當であるし又公平なことだつたと思ひます。

　それなのにその中にて、朝鮮人幾人が血を流し死んだかと云へば中尉一人兵卒二人都合三人であつて誠に恥かしい次第であります。

　しかし身を御國に捧げて血を流し得らる兵役のことにはそんな様な貧弱な數字を示したと云ひもしましょう[[2]](#footnote-2)。だが我らはいくらでも捧げ得らる債券を買ふ點に至つても、四五年間國債を朝鮮人が消化したのが八分六厘三毛と云はれ、これ又貧弱至極な狀況だと申さねばなりません。

　第一に我等は體を尠く捧げたし、

　第二に我等は物質を尠く捧げたし、

　第三に我等は心を尠く捧げた、

と思ひます。大君と御國に心を捧げることは第一番になることと思ふが[、]これとて尠いからには我等は誠に相濟まなく存じます。

　今は米英撃滅の最中でありましてこの時こそ我等はあらん限りの力を皆出し盡さねばならぬ時機だと思ひます。心と物質と身を捧げて、國民全體が決戰體制を取らねばならぬ秋だと思いひます。

　特に[こ]の際我等半島人の使命は誠に大きいものがあると思ひまするのは勞役のことであります。十七年度に於て幾百萬の勞力が必要であるかはその數字は未だ分りもせず又使用處も専門家でない私には分りませぬが、兎にかく生産機關が前よりうんんと増へ[て]行き又出征に因る人員不足を感ずるこの際、足らない處へ半島人が勞力を充當せねばならぬと思ひます。その他國債を買ひ貯蓄を致し、軍需資材獻納等我が報國團員が率先全幅の力と誠を盡されんことを切に御願いたします。（談、文責記者）

1. 『大東亞』14-3、1942年5月号。「臨戰報國團首腦部は語る」という特集記事の1つで、記者との対談を記者がまとめたもの。濁点の誤りを適宜修正した。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 兵役は生死にかかわることなのでこのように貧弱な数字になったと言えるかもしれない、という意味。 [↑](#footnote-ref-2)